



自治医科大学附属病院
病理に興味のある臨床科の先生向け

臨床に軸足をおいた 「消化器病理診断」研修プログラム

<概要>

例えば

「消化器内科」

臨床助教として
消化器内科に所属して

- ・カンファレンス
- ・検査（内視鏡, EUS
EUS-FNA, etc)
- ・ほか
に参加

病理診断科

外科手術検体, 生検検
体, 細胞診検体に対す
る病理診断報告過程にリ
アルタイムに入って研修
(2-4日/週)

臨床病理カンファレンスで
のプレゼンを担当

学会発表, 論文執筆も
目指す

科をまたいで, 行き来しながら研修
(本プログラム最大の特徴)



自治医科大学病院 病理診断科

I. 理念

消化器系臨床家に、臨床科に所属した上で病理診断学研修の機会を提供することで、この分野の高度医療人の育成に寄与する。

II. 概要

ある程度の臨床経験を有した消化器科医（専門医機構の定める消化器専門研修を終えた程度の中堅の臨床医を想定）が、自治医科大学の臨床科に所属した上で、消化器疾患に関する病理診断学研修を行うプログラム。

III. プログラムにおける目標

- ・消化器系疾患の手術検体の取り扱い，肉眼観察や切り出しのポイントを習得し、癌取扱い規約等に準じた病理診断報告書原案を作成できるようになる。
- ・臨床画像と病理像の対比を重視して病態を理解できるようになる。
- ・術中迅速診断の意義，通常診断との違いなどを理解する。
- ・細胞診、免疫組織化学検査については、本人の希望に応じて目標を設定し研修を行う。
- ・本人の希望にもより、臨床病理学的研究を行い、学会発表や論文発表を行う。

IV. プログラムの特徴

- ・自治医科大学の臨床助教として消化器内科、消化器外科または病理診断科に所属することで、身分と生活がある程度保証された状況で、病理診断研修を行うことができる。
- ・臨床科の臨床助教となることで、臨床に軸を置いた病理診断学研修を行える。
- ・臨床医に必要な病理診断学知識，経験を効率よく習得できるような研修プログラムを自由に組める。（専門医機構のプログラムに影響されない）
- ・病理診断部と消化器内科，消化器外科との密な連携により、それぞれのカンファレンスへの参加、各種検査や手術の見学なども可能（一部は、むしろ推奨）。
- ・充分な症例数を短期間で経験できる。

V. プログラムの実施内容

1. 対象者

- ・原則、臨床経験2年以上の消化器内科医，消化器外科医，放射線科医
- ・最大3名まで。

2. 期間

- ・原則、1年単位で2年間まで

3. 経験できる症例数

自治医科大学附属病院では、年間約3,600件（新館南棟オープン後の見込みは約4,300件）を超える手術検多数があり、この内、消化器外科からの検体は約1,600件（同 約1,900件）ある。また、これに加え、消化器内科からの検体（消化器生検や粘膜切除検体など）は、約3,400件（同 約4,000件）あり、特に、EUS-FNAも近年増加しており年間約120件行われてる。

以上のような症例数があり、要望や目的に応じて、比較的短期間に豊富な経験を積むことが出来る。

4. 研修の実際

病理専門指導医の指導の下で2~4日/週（業務形態は事前の話し合いによる）、病理診断の研修を行う。

連絡先：自治医科大学 病理診断科 福嶋敬宜
住所：〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1
電話：0285-58-7330
e-mail：nfukushima@jichi.ac.jp
Webサイト：http://www.jichi.ac.jp/pathology/